

新型コロナウイルス感染症対策

全日本学生テニス連盟主催大会開催ガイドライン

目次

はじめに	2
I 遵守事項	3
大会開催決定に関して	3
大会主催者が準備する事項	3
参加募集時の対応	4
大会参加選手への対応	4
選手の試合中の遵守事項	5
大会スタッフに係わる施策	5
II リスク管理	6
留意事項	6
III 医療面での対応	6
別紙 新型コロナウイルス感染症 症状チェックシート	

2021年6月23日

全日本学生テニス連盟

はじめに

新型コロナウイルス感染症は、未だに世界で感染が続いており、日本でも終息が見通せない状況にあります。学生テニス界も例外でなく、昨年度に引き続き開催中止あるいは時期、規模、試合形式の変更等対応しながらの開催を余儀なくされています。大会を実施するにあたっては、目に見えない感染源の脅威に、選手、大会関係者がさらされ、感染者となったり感染源になったりすることは全体に避けなければなりません。

スポーツイベントの再開に向けた感染症予防対策については、政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（令和3年6月17日変更）及び日本スポーツ協会・日本障がい者スポーツ協会が作成した「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（令和3年2月15日改訂）に基づく対応が要請されています。

本ガイドラインは「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」及び日本テニス協会が作成、発表する「新型コロナウイルス感染症対策移行期間でのステップ別 JTA 公式テニストーナメント再開ガイドライン」を基に作成しております。

基本的な考え方として、「当該スポーツイベントは開催される都道府県の方針に従うことが大前提であり、開催や実施の判断に迷われた際は、開催地や施設が所在する都道府県のスポーツ主管課や衛生部局等に相談」としています。全日本学生テニス連盟においても、開催される都道府県の方針に従い、全国、当該地区の感染状況を考慮した上で、大会開催の有無や規模の変更等を決定致します。

本ガイドラインの遵守をすることで、感染リスクを抑えることが可能になるものの、100%の感染を防ぐことはできません。その点について十

分にご理解頂いた上で、本連盟主催大会に参加する学生、関係者の一人一人が自覚の持った行動を心掛けて頂きますよう、お願い致します。

遵守事項

1. 大会開催決定に関して

- ① 都道府県のスポーツイベント開催方針に従い決定する
- ② 日本スポーツ協会・日本障がい者スポーツ協会「スポーツイベント再開ガイドライン」を遵守すること
- ③ JTA 公式テニストーナメント再開ガイドラインの適用施策の実施を確実にすること
- ④ 大会参加選手・関係者は「全日本学生テニス連盟主催大会再開ガイドライン」を一読し、ガイドラインに沿った行動を心掛けること
- ⑤ 大会開催における感染症対策に関しては、日本テニス協会医事委員会からアドバイスを受け、実施する

2. 大会主催者が準備する事項

- ① 大会本部(大会受付)に体温計(非接触型のもの)を用意し、入場する関係者全員の体温測定を行う。
- ② 手洗い場所
 - (1) 手洗い場所(更衣室・トイレ等)には石鹸を用意する。
 - (2) 布タオルやハンドドライヤーは使用せず、紙タオルを十分に用意する。
 - (3) 手洗い場所以外にも、各所にアルコール消毒液を設置する。
 - (4) トイレの蓋を閉めて汚物を流すように心掛ける
 - (5) 各施設は常時換気を行い、定期的な消毒を行う。
- ③ 更衣室、休憩・待機スペース
 - (1) 基本的に利用を避ける形で大会運営を行い、選手の待機は屋外を基本とする。
 - (2) 着替え等以外の理由での更衣室の利用は基本的に不可とし、終了後すぐに退室するものとする。
 - (3) 広さにはゆとりをもたせ、他の参加者と密な状況が発生しないよう、一度の入室人数を指定する。

(4) 換気を徹底する他、定期的な消毒を行う。

④ ゴミの廃棄

選手が出したゴミについてはビニール袋などに入れ、各自持ち帰ることを基本とする。

⑤ 大会会場

大会会場を関係者の種別、感染症対策別に、立ち入り可能区域の区分(ゾーニング)をレベル毎に明確にすること。

ゾーン A：選手・メディカル関係者・大会運営スタッフ A

→入場要件 高 選手更衣室・メディカルルーム

ゾーン B：大会運営スタッフ B・選手関係者 A・スポンサー A

→入場要件 中 大会運営スタッフ控え室・テニスコート

ゾーン C：メディア・選手関係者 B・大会関係者

→入場要件 低 限定エリアのみ

3. 参加募集時の対応

① 参加者が遵守すべきこと

(1) 以下の事項に該当する場合には自主的に参加を見合わせること

(a) 体調が良くない場合(例：発熱、咳、咽頭痛、味覚・嗅覚障害などの症状がある場合)

(b) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

(c) 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合

(2) マスクを持参すること(試合以外の時間は原則マスクの着用をすること)

(3) こまめな手洗い、アルコール等による手指の消毒を実施すること

(4) 他の参加者、大会スタッフ等との距離(できるだけ 2m を目安に最低 1m を確保すること)

(5) 会場、及びその周辺で大きな声での会話、応援等をしないこと

(6) 感染防止のために大会主催者が決めたその他の措置の遵守、指示に従うこと

(7) 大会終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

(8) 厚生労働省の「COCOA システム」の利用を推奨する

4. 大会参加選手への対応

- ① 会場に入場する際は、毎日大会受付にてチェックインを行い、体温測定を行うこと
- ② 事前に O.O.P を HP にアップし、指定された入場時間に選手は入場すること
- ③ 選手は大会 2 週間前からの健康チェックシートの記入を行い、同意書を試合時に提出すること
- ④ 大会前後のミーティングや懇親会等の開催は基本的に避け、やむを得ず開催する場合には、短時間かつ 3 つの密を避けた状態で行うこと
- ⑤ 試合終了後は速やかに会場から退出すること
- ⑥ 食事については極力会場内で行わないこと

5. 選手の試合中の遵守事項

- ① 十分な距離の確保
 - (1) ポイント間、チェンジエンドの際は対戦相手、パートナーとの距離を極力 2 メートル以上確保すること
 - (2) 試合終了の挨拶は握手以外の方法で行うこと(審判との挨拶含め)
- ② ラケットや自らの試合で使用するボールなどのプレーに必要なもの以外にはコートサーフェスも含めできるだけ手で触れないこと
- ③ タオルの共用はしないこと
- ④ タオルは手が触れる面と顔を触れる面を使い分けること
- ⑤ プレー中は手で顔を触れるのを極力避けること
- ⑥ ラケット・水筒をはじめとする用具を他人と共有しないこと
- ⑦ 咳・くしゃみの際は腕で口を覆うこと
- ⑧ 唾・痰を吐くことは行わないこと

6. 大会スタッフに係わる施策

- ① 本ガイドラインの周知徹底を図ること
- ② 大会スタッフから以下の情報の提出を求めること
 - (1) 氏名、年齢、住所、連絡先(電話番号)
 - (2) 大会当日の体温
 - (3) 大会前 2 週間における以下の事項の有無
 - ・平熱を超える発熱
 - ・咳や喉の痛みなど風邪の症状
 - ・倦怠感、息苦しさ
 - ・嗅覚や味覚の異常

- ・体が重く感じる・疲れやすい等
- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされたものとの濃厚接触の有無
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある場合

- ③ スタッフが欠けた際の計画を立てること
- ④ 必要に応じて、スタッフを2つのチームに分け、それぞれ別の日に勤務させること
- ⑤ 他のスタッフから常に2メートルの距離を保つこと
- ⑥ 良好な衛生状態を維持すること
- ⑦ 常にマスクを着用すること
- ⑧ トイレの使用前後やものの表面に触れた後も含めて定期的に手を洗い、消毒すること
- ⑨ 可能な限りものの表面に触れないようにすること
- ⑩ 電話やコンピューターのキーボードを含め、定期的に机の周りを消毒すること
- ⑪ 私物を共有しないこと
- ⑫ 新型コロナウイルス感染症の症状が出た場合、また症状のある人と接触した場合は会場に入場しないこと。

II リスク管理

1. 留意事項

大会主催者は、万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、イベント当日に参加者より提出を求めた情報について、保存期間(少なくとも1ヶ月以上)を定めて保存しておくこと。

また、大会終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、開催自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておくこと。

加えて、現在導入が始まっているスマートフォンを活用した接触確認アプリは接触率の低減や感染の拡大防止に寄与することを踏まえ、活用を検討する。

その結果を踏まえて、地元テニス協会及び日本テニス協会に報告すること。

Ⅲ 医療面での対応

ドクター・トレーナーが配備されている場合

1. 体制

- ① 新型コロナウイルス感染症の疑いがある者のための隔離室を用意する。
- ② 個人用保護具及び赤外線温度計の適切な供給を維持する。
- ③ 隔離、メディカルスクリーニング、連絡の流れ、現場からの搬送を含んだ現場での新型コロナウイルス感染症症例への対応手順を確立する。
- ④ スポーツイベント再開ガイドラインに基づき、万が一感染症が発生した場合に備える

2. 対象者別対応施策

① 選手

- ・大会開始2週間前からの症状(発熱、咳などの風邪症状)の有無を確認させること
- ・新型コロナウイルス感染症症状チェックシートを大会14日前から回答し(選手の決定が14日前より遅れた場合はその時点から記入)、試合当日の朝も健康チェックシートへの記入を行うこと
- ・大会トーナメントディレクターはドクターの助言を受け、回答結果から総合的に出場可否を判断し、必要に応じてPCR検査を選手に要請すること

② 大会役員

- ・大会トーナメントディレクターはドクターの助言を受け、回答結果から総合的に判断し、必要に応じてPCR検査を要請すること

③ 医療関係者向け安全対策

- ・新型コロナウイルス感染症症状の有無を確認すること
- ・常にマスクを装着して対応すること
- ・選手に触れた際には随時手洗い、うがい、消毒を心がけること
- ・手を洗った後はペーパータオルを使用すること
- ・一定の距離を保ち、選手に近づいての対処をできるだけ短時間に手際良く行うこと
- ・処置を実施する場合は、グローブ、必要であればフェイスガードを使用すること
- ・処置の後は必ず使用した機材の適正な処理と必要な範囲の洗浄消毒を行うこと

3. メディカルルームについて

- ① 対応する選手は一度に1名とし、複数選手がメディカルルームに留まらないようにする。4㎡に一人を原則とする
- ② 定期的に扉を開け外気を入れるなど換気を行う
- ③ 可能であれば空間消毒剤を定期的に散布する
- ④ 入り口、手すり、机など手が触れる部分の定期的な消毒を行う

4. 使用する医療器材・備品の消毒

- ① 処置テーブルは選手対応ごとに消毒する
- ② 備品消毒にはキッチンペーパーを使用する
- ③ タオルは選手ごとに取り換える
- ④ シーツは使い捨ての不織布製のものとする
- ⑤ 選手が顔をあてる部分は、シーツとは別に使い捨てのフェイスシートを使う
- ⑥ 手の触れる部分の消毒(携帯電話、パソコン、トランシーバー、机など)を定期的に行う
- ⑦ メディカルルームの部屋の広さから、収容人数(選手のみではなく、メディカルスタッフを含め)の目安を検討し社会的距離を確保する

5. メディカルコートコール(MT、MTO など)

- ① 選手に触れる前に手指を消毒する。できる限りグローブをつける
- ② 聞き取りの場合は顔と顔の距離に注意して、お互いの飛沫感染を避けるため正面を避ける
- ③ 選手に接触する評価方法はできる限り必要最低限とする
- ④ 処置が終了した際には、接触部位と手指消毒を自身と選手に行う
- ⑤ 使ったタオルなどは再利用しないように処置する
- ⑥ メディカルルーム帰還後に使用した器材を消毒する
- ⑦ 自身の手洗い、うがい、消毒を行う

6. メディカルルームに準備すべき備品(1室1名1テーブルあたり)

- ① 手指消毒剤＋スプレー 500ml~1L
- ② 除菌液＋スプレー 500ml~1L
- ③ ディスポーザブル サージカルマスク 50枚
- ④ ディスポーザブル グローブ 100枚(50ペア)入り 1箱
- ⑤ キッチンペーパー 2ロール

- ⑥ ペーパータオル 1000 枚(200 枚入り 5 箱)
- ⑦ ボックスティッシュペーパー 3 箱
- ⑧ デイスポーザブルシート 1 ロール(50 枚)
- ⑨ デイスポーザブルフェイスシート 1 箱(100 枚・1 箱)

以上